

令和8年度 前期 学校自己評価のお知らせ

保護者の皆様へ

これは、前期に行った「学校自己評価」の結果です。学校自己評価とは、教師自身が、学校教育目標の達成状況や教育活動の実施状況进行评估するものです。その際、評価の客観性を増すために、「児童アンケート」や「保護者アンケート」の結果も参考にします。ただし、質問の言葉は教師、児童、保護者それぞれの立場によって異なります。教師には、目指す児童の姿のための支援や取組が実践できたかを問い、児童には、自分の姿を問い、保護者には、日常の児童の様子や児童との会話等から感じている姿を問うています。これらの評価の結果をふまえて、学校改善に向けた今後の教育活動を進めていきます。

お時間があるときにお読みいただき、本校の教育活動に対して御理解いただきますとともに、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

系島市立前原小学校
校長 重富 紀子

まごころさん

がんばるさん



えがおさん

系島市立前原小学校

実施期間：令和8年6月30日（火）～7月3日（金）

【評価方法】
4段階 4:よくできている 3:だいたいできている 2:できていないときの方が多い 1:できていない

【本校の教育目標】 まごころで学び、えがおでふれあい、ねばりづよくがんばることの育成

【本年度の重点目標】 自ら発見し 考え 表現する 子どもの育成

本校の教育目標、めざす子ども像に沿って項目を設定し評価しました。

「まごころで学ぶ」…学習面について、自ら学びよく考えて表現し他者と対話する姿

「えがおでふれあう」…思いやりをもち互いに認め合い助け合う姿

「ねばりづよくがんばる」…心と体を鍛え、根気強くやりぬく姿

	質問項目		児童	教師	保護者
まごころで学ぶ子ども	①	自分の考えを友達に進んで伝えたり、友達の考えを聞いたりして、話し合うこと	2.33	2.89	2.84
	②	自分の考えやふり返りをノートや学習プリントに書くこと	3.21	2.83	2.73
	③	自分に合った問題や挑戦したい問題を選んで自分から進んで取り組むこと	3.19	2.69	2.77
	④	地域の「こと」や「人」と関わる学習で地域のことをよく知ること	3.38	2.57	2.75
	⑤	勉強が楽しいと思うこと	3.31	2.83	2.71
えがおでふれあう子ども	⑥	友だちのよさを進んで見つけようとする	3.41	2.78	3.11
	⑦	友だちにやさしくしたり、思いやりのある行動をしたりすること	3.32	2.92	3.22
	⑧	学校のきまりを守ること	3.42	2.7	3.22
	⑨	自分から進んであいさつをすること	3.39	2.51	2.81
	⑩	困ったときに先生に相談すること	3.35	2.95	2.9
	⑪	友達に分かってほしいとき、自分の気持ちを友達に伝えること	3.18	2.6	2.72
ねばりづよくがんばる子ども	⑫	学校は楽しいと思うこと	3.22	3.03	3.34
	⑬	休み時間や体育の学習で進んで体を動かすこと	3.55	2.95	3.21
	⑭	「ゆめかなえノート・フォーサイト手帳」に自分の目標を立て、がんばること	3.62	2.57	2.82
	⑮	係活動や一人一役（5、6年は委員会活動）など、自分にできることをしっかりとすること	3.46	2.94	2.9

・保護者は各児童について回答 回答率58 %

◇考察

1 児童の自己評価の高さから見える成果

前期学校評価では、多くの項目で児童の評価が教師評価を上回る結果となりました。特に、「地域の『こと』や『人』と関わる学習」（3.38）、「友達のよさを進んで見つけようとする」（3.41）、「学校のきまりを守ること」（3.42）、「自分から進んであいさつをすること」（3.39）、「ゆめかなえノート・フォーサイト手帳に目標を立ててがんばること」（3.62）、「自分のできることをしっかりとすること」（3.46）等で高い評価となりました。

児童が学校生活に前向きに取り組み、自分自身の成長や頑張りを実感していることが分かります。これは、本校の教育活動を通して自己肯定感や達成感が育まれた成果と考えられます。

2 教師と児童の認識に差が見られる課題

一方で、教師は児童の将来的な成長を見据え、「さらに伸ばせる部分がある」「より高い力を育成できるのではないか」という課題意識をもって自己の教育実践を振り返っており、評価が低くなった項目があります。

「目標を立ててがんばること」は教師評価 2.57 に対して児童評価 3.62 で差が 1.05、「自分から進んであいさつをすること」は差が 0.88、「地域のことを知ること」は差が 0.81、「学校のきまりを守ること」は差が 0.72 となっています。後期も、児童が更に成長できるよう支援していきます。

3 家庭・地域とのつながりから見える課題

特にあいさつについては、児童評価 3.39 に対して保護者評価は 2.81 であり、0.58 ポイントの差が見られます。校内では意識して挨拶できていても、家庭や地域では十分に実践できていない様子が見えがえします。学校・家庭・地域が連携し、大人が率先してお手本を見せ、日常生活の中で挨拶を定着させる取組を進めていく必要があります。

4 「対話的な学び」に関する課題

本年度の重点目標は「自ら発見し、考え、表現する子どもの育成」です。しかし、「自分の考えを友達に進んで伝えたり、友達の考えを聞いたりして話し合うこと」は、児童評価が 2.33 と全項目で最も低く、教師評価 2.89、保護者評価 2.84 を下回りました。児童自身が「自信をもって伝えられていない」「十分に話し合えていない」と感じていることが分かります。

一方で、「自分の考えやふり返りを書くこと」（3.21）や「自分に合った問題を選んで取り組むこと」（3.19）は高い評価を示しており、個人で考える力は着実に育っています。

今後は、自分の考えを他者に伝え、対話を通して深めていく力の育成が求められます。

5 保護者評価から見える本校の強み

保護者評価で最も高かった項目は「学校は楽しいと思うこと」の 3.34 でした。また、「友達にやさしくすること」「学校のきまりを守ること」（ともに 3.22）、「進んで体を動かすこと」（3.21）、「友達のよさを見つけること」（3.11）も高い評価を得ています。

児童が安心して生活を送り、友達との関わりを大切にしながら成長している姿が、保護者からも評価されていることが分かります。

総括

今回の結果から、児童は学校生活を楽しいと感じ、自分の成長を前向きに捉えていることが分かりました。一方で、教師との認識の差が大きい「あいさつ」「目標を立てた継続的な取組」「地域との関わり」については、実践の質を高めていく必要があります。また、本年度重点目標に関わる「話し合う力」「表現する力」は児童自身が課題意識をもっていることから、今後の教育活動における最重点課題として改善を進めていきます。